



令和3年度版 (2022年3月25日)

◆巻頭言

- ・9つのマスから無限のアイデア …… p 2
- ・不安を抱えるMさん。Mさんを支えているものは…p 4
- ・骨折闘病記 …… p 7
- ・出合った 新・着・図・書にガッテン! …… p 8
- ・スマホに換えました …… p 10
- ・住み慣れた地域で 子と親を支える
居場所づくり …… p 11

巻頭言

「ト」と「マ」と「レ」のすすめ

あきこまを支援する会 高橋 恒治

ト・マ・レ ? 止まれ、留まれ、泊まれ……。

何を思い浮かべられましたか。残念ながらまったく違ったことでした。トリセツ・マンダラ・レシピの頭文字を並べたものです。トリセツ? マンダラ? レシピ? マンダラはあまり聞いたことがないかもしれませんね。

トリセツは、取り扱い説明書のことで、ここでは自分を紹介する説明書きのことです。名刺では小さ過ぎるので、サイズを大きくし、知ってもらいたいことを書いたものです。初対面の人に、自分のことを要領よく説明し、誤解されることを少なくする働きがあります。名刺代わりにトリセツを差し出すと、短い時間に自分を分かってもらえます。その後のコミュニケーションがより円滑に進められる効果があります。トリセツの次はマンダラです。

マンダラは曼荼羅と書きます。仏教でおなじみですが、ここでは問題を解決するときに役に立ち、支援してくれる道具として「マンダラシート」とか「マンダラチャート」と呼ばれる一枚の紙のことです。これは、今から50年くらい前に提案されていた方法です。大谷翔平選手が高校時代に目標を実現させるために必要なことを導き出すために用いたことで脚光を浴びました。一般に手帳やノートといえば、罫線のあるものが使われ、左から右へ、あるいは上から下へ罫線を頼りに記録していきます。説明やまとめには分かりやすい書き方ですが、思考を巡らし、アイデアを出そうとするときは、単一の方向ではなく、考えを四方八方に広げていきます。

おしまいレシピは処方箋のことです。料理ではおなじみの言葉ですが、ここでは、マンダラシートに絞られてきた目標の実践法を書いたものを意味します。これまで数多く実践し、失敗したり成功したり、途中で止めたりしました。十人十色です。もう一度、視点を変えて、マンダラシートの上に課題、目標を載せてみましょう。違った発見に出合えるかもしれません。

以上「ト」「マ」「レ」の薦めでした。令和4年度は“「ト」「マ」「レ」で進め”で行きませんか。

※関連記事:「9つのマスから無限のアイデア」「不安を抱えるMさん。Mさんを支えているものは」

9つのマスから無限のアイデア

メジャー5年目を迎える大谷翔平選手。『 普通のプロ選手の承認欲求は金や名誉だが、彼は野球がうまくなること。外からの商品価値ではなく、自分の精神価値を大事にしている 』（10年前大谷選手と入団交渉したプロ野球日本ハム・大淵隆スカウト部長）

マンダラート（マンダラシート）をご存じですか？ 大谷翔平選手の活躍で、世間の注目を浴びたアイデア発想法です。大谷選手が高校時代、野球部の監督から教えられた発想法で、9個のマスを使って目標に近づくために必要な事柄を求めていくというものです。

大谷選手が目標に置いたのは多くの球団（8つ）からドラフト1位指名をもらう事でした。<9個の真ん中に「ドラフト1位 8球団」>

そのための切り口（心がけていくこと）を周りの8つのマスに置いていきました。< 「体力づくり」 「コントロール」 「キレ」 「スピード」 「160km/h」 「変化球」 「運」 「人間性」 「メンタル」 > …… 右図

この8つのマスのひとつ一つについて、さらに、大切にしたいこと、取り組みたいこと配置し、展開させていきます。

…… 図1 ～ 図3 （図4～図8は省略）

体づくり	コントロール	キレ
メンタル (図1～)	ドラフト1位 8球団	スピード 160km/h
人間性 (図2～)	運 (図3～)	変化球

図1

はっきりした目標、目的	一喜一憂しない	頭は冷静に 心は熱く
ピンチに強い	メンタル	雰囲気 に流されない
波をつくらない	勝利への執念	仲間を思いやる心

図2

感性	愛される人間	計画性
思いやり	人間性	感謝
礼儀	信頼される人間	継続力

図3

あいさつ	ゴミ拾い	部屋 そうじ
道具を大切に使う	運	審判さんへの態度
プラス思考	応援される人間になる	本を読む

マンダラ（曼荼羅）は仏教の世界観を視えるカタチにあらわした絵画です。マンダラのように中央から放射状に広がるマスを用いた発想法がマンダラート（マンダラチャート）です。

アイデアの発想以外にも、思考の整理や目標設定など、幅広く活用できる思考の道具です。図1～図3は野球選手に限らない一つの目標のです。一方向の見方ではなく四方八方に目を向けることが大事であることに気づきます。

突然、一次元から二次元の話題に変わります。

「バーコード」をご存じですね、「QRコード」はどうですか？



バーコードは、0 から 9 までのそれぞれの数字を白と黒の線のパターン図で表し、レーザースキャナーで読み取ります。買い物のとき商品に付いているのでいつも世話になっています。このバーコードは一次元コードと呼ばれ、1974 年にアメリカで生まれました。

一方、QR コードは、バーコードが一次元コードであるのに対し、2 次元のコードです。横方向だけでなく縦方向にも情報が配置され、図のなかに数字のほか文字も記号化できるようになりました。バーコードのおよそ 100 倍のデータを保存できるのだそうです。



最初の QR コードは、バーコードから 20 年後の 1994 年に日本の自動車メーカーの社員が発明し、製品の在庫管理に使用されました。そこから一般に広がり、今ではスマートフォンでも読み取れるほどの普及を見せています。レーザースキャナーでなく光スキャナーで読み取っています。

バーコードと QR コードの違いは、見てのとおり、白と黒の縦並びパターンが、横方向と縦方向に黒と白が混在していることです。マンダラート（マンダラチャート）が一方向だけでなく、二方向からさらに放射状に広がりを見せているのに似ていると思われませんか。

続いて、二次元に目を向け、全体に目を向けることによって答えを導き出せる数字パズルを紹介します。頭が活性化できるような気がします。

1					2
	5			3	
		4			
			5		
	1			6	
4					1

問題 『横 6、縦 6 のマスがあります。横方向、縦方向のマスの中、さらに太枠で囲まれた 6 つのマスの中それぞれに、1 から 6 までの数字を入れてください。』

【ポイント】 早く完成させることがねらいではありません。上下、左右に目を向け、全体に目を向けながら部分を見ていくことを繰り返し行うことの大切さを

学んでいただければ幸いです。

マス枠の数字を入れ替えることで 6 回分の数字パズル問題になります。1 を 2、2 を 3、……、6 を 1 に換えます。毎日、一回挑戦してみましょう。

この原稿をまとめている 3 月 16 日の新聞に上の問題の元になった 3 分間チャレンジが再び掲載されました。掲載のチャレンジ問題は数字ではなく、6 つの異なる図形が描かれています。このたびも図形を数字に換えて、右のような新しい問題にしました。

この場合も、1 回できたら数字を入れ替えて、新鮮な気持ちで毎日挑戦できます。ますます頭が活性化されそうですね。

1				5	
					6
	3	5			
			3	4	
6					4
	2				

(2022. 3)

“あきこまの集い”に参加の

不安を抱えるMさん。Mさんを支えているものは

Mさんは、新聞の開催お知らせを見て「あきこまの集い」に参加しました。2019年（平成元）11月のことです。初めのMさんは周りの話を聞いていることがほとんどでした。AD/HD 親の会（アインシュタインの会）が主催する当事者会のことを紹介しました。彼の居場所の一つになればとの思いでした。

2回目（1月）、3回目（7月）と参加を重ねるうち、自分のこと以外に少しずつおばあちゃんのお世話のこと、妹が抱えている問題について話題するようになりました。

初めて会ってから1年後の11月、高齢のおばあちゃんと一緒に集いに来てくれました。おばあちゃんもMさんをととても心配していました。このときはMさんの話題を中心に話し合うことができました。Mさんは必ずノートを出し、会話の内容を書き留めます。小さなノート（B6サイズ）に小さな文字で書いているとの印象にあります。

Mさんの日常は家と会社の往復が中心で、両親との会話も多くはないようでした。学校時代も友達との関係がうまく行かず、悩みの一つでした。友達の作り方を聞いてきましたが、うまく回答できませんでした。

2021年3月、全国難聴児を持つ親の会誌「ベル181号」に自分自身の取り扱い説明者を作っている人の記事が出ました。参考になると早速Mさんにも情報提供しました。同じ7月には大谷翔平選手の目標達成シートを資料として提供しました。

取り扱い説明書（トリセツ）のことは、7月開かれた秋田県発達障害者支援センター“ふきのとう秋田”の主催の「発達障害×自己理解」の研修会でも発表の中にも出てきていました。

以下は、これまでのやりとりからのMさんの情報の一部です。

1 幼児期から高校まで人間関係での悩んできており、それは今も続いています。

- ・話しかけるのが苦手。友達づくりに悩んできた。
 - ・仲間外れになることを心配し、相手の言いなりになったこともある。
- ☆ 県央部の実業高校に進学できるほどの学力の持ち主である。

2 卒業後の就業経歴

会社①（2011.4） 一般雇用で工業系の会社に就職したが不安で仕事が手に付かないことがよくあった。仕事でミスすると頭が真っ白になった。学校時代も経験していることが会社でも。5か月で自主退職した。精神面で深く落ち込んでしまった。

会社②（2012.6） ポリテクセンターで技能講習を受け（2011.12から12.6）、コンピュータを使った写真の修整作業の仕事に就いた。緊急雇用創出事業枠（3か月）で採用された。

仕事には問題なく取り組めたが、休憩時間になると、同僚との過ごし方に不安があり、ストレスが重なった。3か月の雇用期間が終わり退社となった。

会社③（2013）食料品会社の倉庫で働く。商品の仕分け作業はうまくできたが賞味期限のチェ

ックでミスが重なった。続けることに不安を覚え、自主退職した。

会社④（2014年春） 一般雇用は困難であることに気づき、障害者雇用枠で就職する。この会社では多くの課題を抱えながらも継続できている。

3 現況

- ① 昔のことを後悔し、頭から離れない。
- ② 今の仕事のことのほか将来のことが心配になっている。家族のこと、結婚など自分のことなど。 一番の願いは安定した正規雇用である。
- ③ 決断力がない。
 - ・お金の失敗している。お金を使うのがもったいない。
 - ・中途半端な行動をする。気にしてしまう自分が嫌いだ。
 - ・以前のように本を読まなくなった。（本を買うのがもったいない？）

4 不安を核にして、マンダラシート作成を提案する。

昨年（2021年）7月、大谷翔平選手も作成していたというマンダラシートのことを話しました。真ん中に「心配や不安」を置いて、その周りに関係すると思われる事柄をこちらで示しました。
 [図1] Mさんからは2か月後の次回までに周りの8つの事柄について思い当たることを記入してもらおう（作成してもらおう）ことにしました。

次の集い（9月）には、パソコン（エクセル）で作ったシートを持ってきました。図1の8つについてそれぞれ言葉を書けていました。8つの枠のうち、自分に関することを書いたのが[図2]です。

[図1]

自分	家族	友達
会社	心配や不安	地域
社員(同僚)	お金	将来

2021.11

「友達はいなくても」＜内館牧子＞の新聞記事を提供しました。内館さんは、記事のなかで事例を挙げ、
 「友達はいなければいけないでいい」
 「親しい友達ができたら、距離を取ってつきあうこと」
 の2点をアドバイスしています。

[図2]

つまずき	ストレス	心身疲労
整理整頓	自分	無計画
偽善者扱い	ネガティブ	マイナス思考

図1の周りに図2のような外枠が8つあり、その空欄を全部埋めると、 $8 \times 8 = 64$ の言葉を書くことができる。Mさんは58個の言葉を記入してくれました。

5 Mさんを支えているものとは

ア 学校は支えにならなかったが、現在の障害者雇用に積極的な企業を認定する企業に巡りあったことで、2014年から8年もの長い間勤務できています。

Mさんが現在まで長く就業できている会社は、障害者雇用促進法に基づき、2020年（令和2）4月に創設された制度「もにす」の認定を受けています。秋田県で初めてです。

「共に進む」（ともにすすむ）

この企業で働く障害者は洗車や部品の仕分け作業に就いています。Mさんは洗車を担当しています。職場の同僚に障害の特徴を理解してもらう講習を開催しているほか、「働ける部署に制約はあるが、今後はもっと活躍してもらえる仕事を探したい」との考えを述べています。

会社の今ある仕事に従業員を合わせるのではなく、従業員が働ける仕事を見つけ出そうとする姿勢が評価できるのです。

イ Mさんは話すことに自信がありません。また、話の内容があちこちに飛んでしまうことがあり聞き手としては疲れます。一方、気づいたことをしっかりとメモしています。この姿勢に感心しました。いっぱいほめました。ただ、持っている「ノート」が気になりました。小さなノートに小さな文字を書いています。

自分を大きく見せるには、大きなノート、大きな文字で書くこと、できれば太いペンを使うこと（シャープペンシルはタブー。芯が折れやすい。）このことを提案しました。（2022.1）実行しているかどうかは、今のところ不明です。

ウ 今後は、Mさんの家族とともに、Mさんを見守っていくこと

Mさんは2014年からこれまでの会社で体験したことを、会社名を真ん中に置いてマンダラシート上に展開しています。

「2014年春～、2014年秋～、2015年春夏～、2015年冬～、2016年冬～、ヒアリング、去って行った者たち、続ける理由」の8つについてそれぞれ、8つずつ記入しています。すごい記憶力です。感心してしまいます。まだ書き始めたばかりですが、このシートを見つめながら、事実関係を結んだり、離したりしながら、これからどのように進むことができるのかを、自らの力で探っていくことでしょう。

Mさんの将来に期待しています。



骨折闘病記

照井 貴久

もらい事故

2020年12月25日の朝、通勤時自転車に乗り歩道を走行中、ガソリンスタンドに入ろうとした車と接触し、転倒。救急車で病院へ運ばれそのまま入院となった。要するにもらい事故で加害者側の前方不注意だった。ケガをしたのは左足の脛骨腓骨骨折だけで頭を打たなかっただけでも良かったと思っている。まさに不幸中の幸いである。

耳マークが役立つ

それにしても5週間の入院生活は想像以上に大変だった。トイレも1人で行けないし、風呂も入れない、コロナウイルスの影響でマスクをしているし、先生や看護師の声が聞き取れない。まるで重複障害者になったような感じだった。そこで耳マークを掲示することにし、それが大変役に立った。

ちなみに病名は「左脛骨（けいこつ）・腓骨（ひこつ）近位部骨折」である。左脛骨と腓骨の骨が折れてずれが生じる、サッカー選手やラグビー選手、階段の転倒や交通事故等に多いケガである。



手術を2回経験

手術も2回経験した。1回目は骨折している部分の骨を出来るだけ元の形に戻してワイヤーを刺入して牽引し、整復位を保てるように固定する「経皮鋼線刺入術・創外固定術」の手術が行われた。2回目は骨折している部分の骨を元の形に戻して金属のねじやプレート、丈夫な糸で固定する「観血的骨接合術」の手術が行われた。特に2回目の手術は全身麻酔だった。そのため、一時聴力が下がり、看護師の声が聞き取りにくくなったのには驚いた。ちょうどその頃（1月5日～7日の3日間）行われた全難聴耳マーク部部員のリモート研修に参加できず、ご迷惑と心配をおかけして申し訳ない気持ちでいっぱいだった。

職場復帰

ようやく車椅子から松葉杖に変わり、2021年1月30日に退院した。3月19日には約3か月ぶりに職場復帰することができた。ここまで頑張れたのは私一人の力ではなく、病院関係者や職場の皆さん、家族、友人、知人、そして耳マーク部員のおかげであることを忘れてはならないと思う。足の状態はまだ完全ではないが後遺症が残らないようにリハビリを頑張っていきたい。

照井貴久さん（秋田市・会社員）が一般社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会の機関紙「難聴者の明日」に投稿したものです。<No.192 2021 夏>

照井さんは、小学生のころ 中通小学校の「ことばの教室」の通級生でした。

2002年（平成14）7月創設した秋田県難聴者・中途失聴者協会の初代会長です。仙台の学校で学んでいるころ、秋田にはない協会の開設のために力を発揮しました。今年が20年の節目の年です。

令和2年度の「潭潭」でも、さきがけ新聞に投稿した記事を紹介しました。タイトルは『 障害者が過ごしやすい社会に 』 <新聞掲載日 2021.1.26>でした。

出合った 新・着・図・書に ガッテン！

令和4年1月4日。新年の県立図書館新着図書コーナーを回りました。「ろうと手話」の本が見つめました。副題は「やさしい日本語がひらく未来」とあります。

1 著者と「ろうと手話」との結びつき

著者は吉開章さん。聞いたことのない名前です。ろう者ではないし、手話通訳者でもないし、学校教育関係者でもありません。電通という会社の広告マンです。仕事から、外国生まれの人が日本に来て日本語を学ぶことの難儀さを目の当たりにしていました。「やさしい日本語」が求められていることを気づいた吉開さんは2016年、福岡市柳川市で「やさしい日本語ツーリズム事業」を立ち上げ、啓発活動に取り組みました。翌2017年、偶然聞いたラジオ番組に心を奪われました。

「手話は日本語とは別の言語であること」「日本語が第二言語になっているろう者がいること」そして「手話がろう教育で長く禁止されていたこと」を聞き、本当に衝撃を受けたといいます。

2 スピーディーな出版

ここから、ろう者や手話について夢中になって勉強しました。やさしい日本語についての講演では必ずろう者の事情について盛り込み、「外国人の日本語に寛容になろうと思っていただけるなら、その気持ちをろう者にも向けてほしい」と締めくくってきたといいます。コロナ禍で講演がままならなくなったこともあって、やさしい日本語の入門の著書を出版する一方、「入門やさしい日本語認定講師養成講座」を開講しました。そこでは多くのメンバーから「やさしい日本語だけではなく、ろう者や手話についてもっと知りたい」という感想があったといいます。そこで、一念発起して、さらに学びを深めて、今回「ろうと手話」の出版につながったのでした。

中身をみると、●障害児教育の流れを知る ●聴覚障害の種類について知る ●手話禁止の歴史を知る ●ろう教育と手話に関する議論について知る の4点についてその事実関係が紹介されています。

出版社は筑摩書房。筑摩書房の編集者との出会いが、今回のスピーディーな出版と関係があります。以前NHKの番組にE T V特集「静かで、にぎやかな世界」がありました。日本で唯一、日本手話で教育が行われている明晴学園を取材した番組です。自らも難聴であるディレクターが制作しました。その後、ちくま新書から『手話の学校と難聴のディレクター E T V特集「静かで、にぎやかな世界」制作日誌』が出た時の新書の担当者が今回の「ろうと手話」の担当者でもあります。

今回、ガッテンしたのは、4つ目の「ろう教育と手話に関する議論」と、それを受けた筆者吉開さんの提言です。

3 提言

著者は文献調査、「全日本ろうあ連盟」や「バイリンガルろう教育関係者」からの聴取を受けて、次のように方向付けています。

ア、関係者の意見に違い、対立がある。

イ、言語としての手話について同じテーブルで議論するのは不可能に近い。

ウ、一つだけ、手話の呼称に関して、現実的で中立的な表現が必要である。

現状を受けて、手話の世界を前に進めるために著者は提言します。

提言① **「議論は必要である。しかし、分裂は避けるべきである」**

提言② **「唯一の当事者団体である全日本ろうあ連盟の立場を尊重しよう」**

提言③ **「日本手語」と「手語」という言葉でまとまろう。**

注：手話（しゅわ）でなくは手語（しゅご）

①、②については、立場に応じて、「日本の手話言語」と「日本手話という言語」という別々の視点のまま議論を続け、使い続けることが必要であることを述べています。手話の呼称に関しての③では、現実的で中立的な「日本手語」という共通の言葉に合流すべきであるとまとめています。

新年早々巡りあった図書の中に、手語（しゅご）という新語を見つけ、少しでも手話の現状が理解促進されるのであれば、今後の議論が盛り上がるためにもガッテンできるものでした。

(2022.1)

これでこの原稿を締めるつもりでした。しかし、3月14日、また新着図書コーナーでタイトル『ろう者と聴者の懸け橋に「手話通訳士」兼「日本語教師」の挑戦』（大月書店）を見つけてしまったのです。本の帯に「日本で唯一の手話&日本語講座の教室から…聴者には手話を教え、ろう者には手話で日本語文法を指導する。その教授法を公開。ろう者に対する差別や偏見、また、手話の世界の問題点にも言及。ろう者と聴者が互いを尊重しあえる社会をつくるために。」とあります。

著者は鈴木隆子さん。聴者です。外国人に日本語を教える日本語教師のための試験「日本語教育能力試験」と「手話通訳技能認定試験」に合格しています。外国人、ろう者（日本手話、日本語対応手話）のための《テンダー手話&日本語教室》の代表です。吉開さん、鈴木さんは共通の課題に挑戦しています。 (2022.3)

スマホに換えました

あきこまを支援する会 高橋 恒治

- ◆2021年10月26日眞子さまが眞子さんに。皇族から民間人になりました。眞子さんのおばあちゃんが民間人から皇族になられたのが1959年(昭和34)4月10日、今から60年も前のことです。そのころからテレビが普及し始めました。もちろん白黒です。
- ◆テレビが普及して20年後、一冊の本が出されました。「テレビに子守りをさせないで～ことばのおそい子を考える～」<1976年(昭和51)>です。絵本代わりに、親代わりに子どもにテレビを見せておけば、親は自分の時間が生まれ、好きなことが出来る、まさに一石二鳥だったのでしょ。う。
- ◆ あれから40年。「スマホに子守りをさせないで」という警鐘ポスターが作られました。作ったのは一般社団法人日本小児科医会です<2013年(平成25)冬> テレビが一家に一台の頃と違って、スマホは個人持ち。場所、時間ともに使い放題です。その影響は子供ばかりか、大人にまで及んでいます。テレビ以上の悪影響でしょう。
- ◆ 「子供に目が向かなくなった」「人との関わりがなくなった」のは事実です。人を相手にするのが苦手でも、スマホやパソコンを扱うのは難しくありませんし、人と関わるより楽です。好きな時間にお相手できます。私たちは人間ではなく、機械の一部になろうとしています。機械(スマホ)がないと生活できない人も多くいます。先輩の経験を通して得られる身近な情報より、ネットを通して得られる役に立ちそうにない、絵にかいた餅のような情報を大事にする時代です。
- ◆ 50数前、教員になったころ、これからは情報化時代だと言われ、新聞や本をたくさん読むように言われ、子供たちにも声を大きくして話しました。情報が少なかったころ私たちは当時の生活に多くの不満は持ちませんでした。当たり前のこととして暮らしていました。テレビの映像を通して情報が入ることで都会の暮らしが紹介されることが多くなり、都会の「明」の部分が強調され、それと比較することで地方の「暗」の部分が目立つようになりました。都会の「暗」、地方の「明」に気づかされないまま、都会に憧れる時代が続きました。いや、続いています。
- ◆ 「♪人生楽ありゃ苦もあるさ」。「楽が先」のこの歌詞に違和感を覚えてきました。私たちの魂は、苦の部分の少しでも楽なものに変えるために修行し続け、寿命を終えると交代し次の人に移るのだといいます。「♪千の風になって」もいい歌です。故障をきっかけにガラ系の携帯電話を換えました。ますます使い勝手が悪くなりました。スマホで得られるという情報はほとんど必要ないし、ポケットに入らない大きさは不便です。電話を携帯する必要のない年齢を迎えています。
- ◆ 「文字を書く」こと、カレンダーの裏に毛筆で歌詞を書くことに努めています。「♪歌を忘れたカナリヤは…」ならぬ「日本の文字が書けない日本人は…」が心配です。年が明けるとすぐ77歳、喜寿を迎えます。

(秋田県聴覚障がい児を持つ親の会<2021.10>へ提供したものを一部書き換えました。)

住み慣れた地域で 子と親を支える 居場所づくり

子と親を支える「にのに」

重い障害のある子を預かり、医療的ケアをする重症児者デイサービス事業所が秋田市にあります。「にのに」といい、所在地の1丁目2の2から名付けられました。運営するYさんは、看護婦として県の施設に勤務し、在宅で医療的ケアを行っている家族の負担の大きさをよく知っておりました。さらに、母親の抱えるさまざまな思い、たとえば仕事をもちたい、自分の時間が欲しいなど数えればきりがありません。途中で看護師を辞して2018年の秋にこの事業所を開設しました。これまで秋田県には存在しませんでした。秋田市初の施設です。

住み慣れた地域で

開設してまもなく利用者さんでいっぱいになりました。「利用者を車いすに乗せて住宅街を散歩する」「スーパーにも立ち寄り買物をする」など地域社会との交流をできるだけ持つようにしました。子どもたちの存在を知ってもらうことが大切であるとの思いからです。イメージしたのは自宅と医療機関の間のような居場所。重い障害があっても、閉じこもりがちにならず、地域と積極的に触れ合うことが成長につながると信じているからでした。

居場所づくり

熱意と行動力があれば道は開ける。Yさんの活動を後押ししたのは、名古屋で施設を営む全国のデイサービス・ネットワークに代表の方でした。重症児デイサービスの重要性を教えられ、「このネットワークの中で秋田は空白域だぞ」「なければ、あなたがつくれれば良い」との激を。母親に仕事を。重い障害を持つ子どもを産んでも、母親が仕事を辞めないでも済むような社会の実現が遠い目標にありました。活動は始まって4年。保育園のように毎日朝から夕方まで見てくれるところ、ときどきショートスティもできるようなところにするのが願いです

あきこま支援、高齢者支援でも大いに参考に！

あきこまを支援する会の前身聴言研OB会は、担当者向けの研修開催が中心でした。たくさんの実践があり、経験者はもちろん新任者も多くを学びました。子どもたちや保護者も互いに育ち合うことができました。

学校を卒業すると、育ち合いの場が極端に少なくなります。子どもと保護者の居場所はずっと求められていきます。あきこまを支援する会は、そうした方々への情報と居場所をするものですが、家の中に閉じこもりがちな地域の高齢者のためにも居場所と情報提供が必要です。

(さきがけ新聞に掲載されたYさんの報道を元に組み立てしました。)

編集を終えて

◆ 50年ほど前、デジタルの言葉とともに、「デジタル思考」と「アナログ思考」の言葉が出てきました。それまでの思考がアナログ中心だったことになります。今回ちょっと触れた「マンダラート (マンダラシート)」は、ノートにメモするときの方法です。そのベースにあるのが「アナログ思考」「マンダラ思考」です。

◆ マンダラ思考に対して、「罫線 (リニア・直線) 思考」があり、一般にノートにメモを取るときは、きちんと左から右向き、上から下向きに罫線を頼りにメモしていきます。自由な発想はマンダラ思考から産み出されるといいます。上下、左右はもとより、斜めや前後に向けて、四方八方に考えを出すことをしてみましょう。罫線の引かれていない、白いノートが良いみたいです。

◆ 今回の「潭潭」の多くは最近の記事です。年度途中の記事は新鮮なうちにホームページに載せるのですが、記事がありませんでした。4年度に向けての記事をお寄せください。早いものはホームページに掲載し、年度末にまとめて冊子として発行します。

【編集子】